

高速マルチサンプリング超解像 CMOSテラヘルツイメージングデバイスの研究開発

研究代表者: 池辺 将之 北海道大学

研究開発期間 フェーズI:平成27年度
フェーズII:平成28年度～平成29年度

研究の背景

テラヘルツ波は、幅広い分野での応用が期待される。
ただし、アンテナアレイ型センサの低解像度が課題

研究の目的

高速マルチサンプリング超解像
CMOSテラヘルツイメージングデバイスの研究開発

社会的意義

- ✓帯域通信、医療、薬物・食品分析、危険物探知
新規のセンシング市場の開拓
- ✓上記センシングを高解像度・動画で出力
- ✓無線伝送技術への適用も考慮

研究開発の概要

